

自己評価および外部評価結果

事業所名 やさしい手グループホームこうふ西

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1階)	ユニット名(2階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念「心をつむぐ絆」をモットーに何をすべきかを入社時の初任者研修で伝えたり、ミーティング等で理念を基に色々な話し合いをしたり、共有して実践できるようにしている。また、理念を書いた紙をフロアーの職員のカウンターに貼付して目につくようにしている。	事業所の理念「心をつむぐ絆」をモットーに何をすべきかを入社時の初任者研修で伝えたり、ミーティング等で理念を基に色々な話し合いをしたり、共有して実践できるようにしている。また、理念を書いた紙をフロアーの職員のカウンターに貼付して目につくようにしている。	「心をつむぐ絆」は、利用者が家族・地域との絆が切れない様という思いを込めた理念である。利用者が安心して暮らせる様に今まで住んでいた家に近い環境が提供出来る事を月1回のミーティングで話し合っている。面会はいつでも自由に出て、家族や地域の方々の絆を繋げていける様に支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	毎月の回覧板を地域の方から頂き、参加できる行事などにはご利用者と参加して交流が少しでもできるようにしている。施設の周りを散歩しながらご近所の方がいらした時は挨拶や世間話で交流できるようにしている。	毎月の回覧板を地域の方から頂き、参加できる行事などにはご利用者と参加して交流が少しでもできるようにしている。施設の周りを散歩しながらご近所の方がいらした時は挨拶や世間話で交流できるようにしている。	地域の文化祭には、習字やタペストリー等を出展して利用者も見学に行った。また、祭りには子供神輿が庭に来て利用者を喜ばせた。保育園児や高校の茶道部の訪問・習字や読み聞かせ等のボランティアが大勢訪れている。第3金曜日にはゴミ拾いを兼ねた散歩で地域貢献に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	限られた運営推進会議の構成員の方にはテーマを設けてミニ勉強会を行ない認知症の理解を少しでも知ってもらおうようにしている。	限られた運営推進会議の構成員の方にはテーマを設けてミニ勉強会を行ない認知症の理解を少しでも知ってもらおうようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で出た意見で、できる限り実践できる取り組みは直ぐに職員と話し合い、サービス向上に向けられるように活かしている。	運営推進会議で出た意見で、できる限り実践できる取り組みは直ぐに職員と話し合い、サービス向上に向けられるように活かしている。	偶数月の第3水曜日の午後2時半から1時間ほど開催している。夏は脱水症状になりやすいので水分補給時は味を変えたり、トロミをつけてむせを防ぐ等の意見があり実施した。地域との交流を増やす為に毎月の行事を利用してはどうかと意見があり検討している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	疑義や質問が生じた時などは連絡を取らせて頂いている。書類の提出等には市へ赴き定期的に足を運ぶことで関係強化に向けて取り組んでいる。認知症のボランティアの研修も受け入れており、その後ボランティアとして来て頂いている。	疑義や質問が生じた時などは連絡を取らせて頂いている。書類の提出等には市へ赴き定期的に足を運ぶことで関係強化に向けて取り組んでいる。認知症のボランティアの研修も受け入れており、その後ボランティアとして来て頂いている。	市の依頼で年に2〜3名の研修生を受け入れたり、月に1〜2回の傾聴ボランティアの訪問がある。運営面で疑問な事は聞いたり、運営推進会議録を届けたり、介護保険の更新時等を利用して協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束審査会を発足して3カ月に一回、会議を開催している。また職員には身体拘束の勉強会を年に3回以上実施している。夜間の玄関の施錠以外には日中は施錠等をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束審査会を発足して3カ月に一回、会議を開催している。また職員には身体拘束の勉強会を年に3回以上実施している。夜間の玄関の施錠以外には日中は施錠等をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束については、職員全員が同じ方向を向いていないとくならないと認識している。勉強会は、毎月職員が交代で講師になり、話し合いをする事で内容を深めている。家族が車椅子からのずり落ち防止にと安全ベルトの提供があったが、説明し理解してもらい外した。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束と関連し、ミーティング時に勉強会や意見交換を行なっている。虐待を通報する義務があることを認識し、職員間でも注意や指導ができる関係性ができている。	身体拘束と関連し、ミーティング時に勉強会や意見交換を行なっている。虐待を通報する義務があることを認識し、職員間でも注意や指導ができる関係性ができている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	身体拘束と関連しミーティング時に勉強会や意見交換を行なっている。	身体拘束と関連しミーティング時に勉強会や意見交換を行なっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約等に関しては契約時に丁寧に説明し不備が無いようにしている。改定時には事前に口頭で連絡を行ない、その後十分な説明と同意を得られるようにしている。	契約の締結、解約等に関しては契約時に丁寧に説明し不備が無いようにしている。改定時には事前に口頭で連絡を行ない、その後十分な説明と同意を得られるようにしている。		

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己評価および外部評価結果

事業所名 やさしい手グループホームこうふ西

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1階)	ユニット名(2階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎年一回、顧客満足度調査を実施。ご家族の意見要望を知ることができ、その内容をミーティング等で職員に報告。改善点を話し合い、運営に反映させている。	毎年一回、顧客満足度調査を実施。ご家族の意見要望を知ることができ、その内容をミーティング等で職員に報告。改善点を話し合い、運営に反映させている。	家族の面会は1日に1~2名ある。行事への参加協力も多く日常的に話す機会が多い。顧客満足度調査で「運動不足で下肢筋力が低下してきた。」との意見があった。話し合って個々の利用者の運動プログラムを作成し、日常生活の中に自然な形で取り入れ実施している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の朝礼や月1回のミーティングで職員の意見を吸い上げたり、定期的な面談で職員の思いをくみ取る機会を設けている。	毎日の朝礼や月1回のミーティングで職員の意見を吸い上げたり、定期的な面談で職員の思いをくみ取る機会を設けている。	管理者と年2回、本部の上司との面談が年1回ある他、会議時や日常的に意見が言える機会がある。利用者の状態変化による勤務シフトの見直しや業務全般についての意見が出る。テーブルやカーテンの交換等購入や修理についての意見も自由に出ている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日々の職員とのコミュニケーションを図ったり、定期的な面談を行い、人間関係、職場環境など思っていることを聞き出したり、不満や不安をできるだけ解消できるように努めている。	日々の職員とのコミュニケーションを図ったり、定期的な面談を行い、人間関係、職場環境など思っていることを聞き出したり、不満や不安をできるだけ解消できるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	初任者研修、現場研修、ウエルカム研修、認知症実践者研修、オープン研修などできるだけ参加できる体制を作ることにより、自己の向上に努めることができている。また、グループホーム独自で月一回の勉強会も行っている。	初任者研修、現場研修、ウエルカム研修、認知症実践者研修、オープン研修などできるだけ参加できる体制を作ることにより、自己の向上に努めることができている。また、グループホーム独自で月一回の勉強会も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	社内にて別サービス事業所と研修や交流を行なっている。運営推進会議では知見者として他者のグループホームの方に出席してもらったり、当施設からも会議に出席することで意見交換や別な視点でサービスの考え方を知ることができ質の向上に役立っている。	社内にて別サービス事業所と研修や交流を行なっている。運営推進会議では知見者として他者のグループホームの方に出席してもらったり、当施設からも会議に出席することで意見交換や別な視点でサービスの考え方を知ることができ質の向上に役立っている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入時のインテークの時点でご本人との面接やご家族とのアセスメントをしっかりと行い、安心できる関係作りをいつも心掛けている。	サービス導入時のインテークの時点でご本人との面接やご家族とのアセスメントをしっかりと行い、安心できる関係作りをいつも心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時には時間を掛けてご家族と話し合い、安心してもらうサービスを導入できるように努めている。ご家族の不安感を共感できるように耳を傾けるようにしている。	契約時には時間を掛けてご家族と話し合い、安心してもらうサービスを導入できるように努めている。ご家族の不安感を共感できるように耳を傾けるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所される前に訪問面接を行なったり、職員との判定会議も行い、入所ばかりを優先するのではなく、今のご本人の状況を知った上で一番適切な支援が何であるか、ご家族も巻き込む対応をしている。	入所される前に訪問面接を行なったり、職員との判定会議も行い、入所ばかりを優先するのではなく、今のご本人の状況を知った上で一番適切な支援が何であるか、ご家族も巻き込む対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員がユニットごとに固定して就労している。馴染みの顔として安心して暮らせる場を提供している。適宜各ユニットの職員が応援などで入ることも度々あり、イレギュラーな(人員が足りない時等)各ユニットに行っても安心して介護を受けられるようになっている。	職員がユニットごとに固定して就労している。馴染みの顔として安心して暮らせる場を提供している。適宜各ユニットの職員が応援などで入ることも度々あり、イレギュラーな(人員が足りない時等)各ユニットに行っても安心して介護を受けられるようになっている。		

自己評価および外部評価結果

事業所名 やさしい手グループホームこうふ西

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1階)	ユニット名(2階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人を支え合う関係性として、行事などの時のお手伝いをしてもらったり、共にご利用者を支えていこうと言う意識は自然にでき上がっている。看取りにおいても一緒にご家族を巻き込みサポートできるような関係を築いている。	本人を支え合う関係性として、行事などの時のお手伝いをしてもらったり、共にご利用者を支えていこうと言う意識は自然にでき上がっている。看取りにおいても一緒にご家族を巻き込みサポートできるような関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時間等は設けておらず、いつでも来られるように伝えている。親戚や友人、教え子などが来て頂いている。外泊なども積極的にできるように努めている。	面会時間等は設けておらず、いつでも来られるように伝えている。親戚や友人、教え子などが来て頂いている。外泊なども積極的にできるように努めている。	アセスメント時に各利用者の馴染みの人や場所の把握をし支援に繋げている。こけ玉作りや花を活ける・習字・合唱等の機会を作っている。面会時間に制限はないので近所の方や教え子等の面会もある。毎日、昼食介助に来る家族、自宅や子供の家に外泊する利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性をもっと難しく時と場合によっては崩れることも常時ある為、常に職員は関係性を把握して孤立しない環境を考えている。一つの例としてテーブルを長テーブルからレイアウトしやすしいテーブルに変えて変化を持たせている。	利用者同士の関係性をもっと難しく時と場合によっては崩れることも常時ある為、常に職員は関係性を把握して孤立しない環境を考えている。一つの例としてテーブルを長テーブルからレイアウトしやすしいテーブルに変えて変化を持たせている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	看取りで亡くなられた後にはグリーフケアを行なうようにしている。無くなられたり他施設に入所された後もご家族が逆に顔を代してくれる場合もある。	看取りで亡くなられた後にはグリーフケアを行なうようにしている。無くなられたり他施設に入所された後もご家族が逆に顔を代してくれる場合もある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	馴染みのスタッフが常に一緒にいることで、信頼関係を構築して表情や言動に注意してご利用者の思いをくみ取るようにしている。ご家族とも連携しながら支援している。	馴染みのスタッフが常に一緒にいることで、信頼関係を構築して表情や言動に注意してご利用者の思いをくみ取るようにしている。ご家族とも連携しながら支援している。	介護計画作成時は、意向を聞いている。家族や知人の面会時に話を引き出しながら思いを知ることもある。伝えられない利用者は、常に寄り添っている事で表情や繋がらない言葉の意味を汲み取る様にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス導入前にご家族から情報の聞き取りはしている。またサービス後でも何気ないご利用者の言葉を大切に感じ取るようにしている。	サービス導入前にご家族から情報の聞き取りはしている。またサービス後でも何気ないご利用者の言葉を大切に感じ取るようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員同士の引き継ぎノート、朝礼時の話し合い、ケア記録などを活用して情報共有しながら現状把握に努めている。	職員同士の引き継ぎノート、朝礼時の話し合い、ケア記録などを活用して情報共有しながら現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画に沿った実行経過記録を使用し、プランに則ったケアが提供されているかケアマネが把握。月一回のケースカンファで意見を出し合う。また担当者会議やプランの同意説明を行なう中でご家族とも話し合い、情報を共有し介護計画を作成している。	介護計画に沿った実行経過記録を使用し、プランに則ったケアが提供されているかケアマネが把握。月一回のケースカンファで意見を出し合う。また担当者会議やプランの同意説明を行なう中でご家族とも話し合い、情報を共有し介護計画を作成している。	入所前のフェイスシートやアセスメント表、また居宅ケアマネージャーの情報を基に入所時の介護計画を作成し本人・家族の同意を得る。その後のモニタリング・評価は6か月に1度行方が職員全員で話し合いそれを反映させて計画を作成する。容態変化時は、家族の同意を得て随時計画を変更している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日のケア記録の作成、ミーティング時のカンファレンス、職員間の気付きは朝礼やノートで共有し、連絡ノートに落とし込む。ケアマネはこれらを鑑み計画書に反映させている。	毎日のケア記録の作成、ミーティング時のカンファレンス、職員間の気付きは朝礼やノートで共有し、連絡ノートに落とし込む。ケアマネはこれらを鑑み計画書に反映させている。		

自己評価および外部評価結果

事業所名 やさしい手グループホームこうふ西

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1階)	ユニット名(2階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	今現在のご利用者のニーズが何であるかを確認してサービスの内容を検討している。	今現在のご利用者のニーズが何であるかを確認してサービスの内容を検討している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議や回覧板を通して地域資源を把握している。文化祭やお祭りなどに参加できるように支援している。	運営推進会議や回覧板を通して地域資源を把握している。文化祭やお祭りなどに参加できるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時ご本人の状態や意向、ご家族の考えを確認した上で今までかかっていた医師が嘱託医である医師に移行するか判断はご家族に委ねている。	入居時ご本人の状態や意向、ご家族の考えを確認した上で今までかかっていた医師が嘱託医である医師に移行するか判断はご家族に委ねている。	主治医は自由になっているが、全員が嘱託医で月2回往診がある。週2回の訪問看護と週1回の歯科往診がある。皮膚科や眼科等の受診は、家族対応であり必要な情報は口頭にて伝え、受診後の報告を受けてケース記録に記入し全職員で共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現場でのアセスメントを基に介護職からの情報や気づきで得た内容を訪問看護師に相談、指示を仰ぐことで受診や医師との連携もスムーズになっている。	現場でのアセスメントを基に介護職からの情報や気づきで得た内容を訪問看護師に相談、指示を仰ぐことで受診や医師との連携もスムーズになっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には医療関係者とご家族の間に入り、詳細な情報を伝えている。また、嘱託医のDrからタイムリーに紹介状を提供してくれることで病院関係者との情報交換も密にできている。退院時のカンファもご家族と参加して嘱託医とも情報共有できるようにしている。	入院時には医療関係者とご家族の間に入り、詳細な情報を伝えている。また、嘱託医のDrからタイムリーに紹介状を提供してくれることで病院関係者との情報交換も密にできている。退院時のカンファもご家族と参加して嘱託医とも情報共有できるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時には重度化の指針をご家族に説明して同意を頂いている。また、状態の変化によっては緊急時や看取り時の方向性を検討して頂く場を何回か設けて、双方のすり合わせができるようにしている。	契約時には重度化の指針をご家族に説明して同意を頂いている。また、状態の変化によっては緊急時や看取り時の方向性を検討して頂く場を何回か設けて、双方のすり合わせができるようにしている。	全員が施設での最後を希望している。看取りの指針の中にその時の対応方法が示されている。職員は年3回の勉強会で看取りケアを学び、何度かの看取りを経験している。看取り後は、利用者にお別れをしてもらい玄関で送る。その後は、ミーティングで看取りを振り返る機会を設けている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアル、連絡網などを見る所に掲示し、全スタッフが緊急時の初期対応ができるように定期的に勉強会を開催している。	緊急時のマニュアル、連絡網などを見る所に掲示し、全スタッフが緊急時の初期対応ができるように定期的に勉強会を開催している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地震対応マニュアル、水害対策マニュアルを作成しており、研修も行っている。防災訓練は同敷地内の職員と合同で年2回実施している。	地震対応マニュアル、水害対策マニュアルを作成しており、研修も行っている。防災訓練は同敷地内の職員と合同で年2回実施している。	消防署立ち合いで年2回夜間を想定しての合同訓練を実施している。終了後は、消防署の職員から反省や指導を受けている。その他事業所独自で年2回実施している。避難場所は、家族や地域に知らせてあり協力が得られる。防災グッズと備蓄品の用意はある。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	初任者研修時にテキストを用意して倫理マナー研修をしている。また、上長が講師となり年一回は倫理マナー研修に全員参加しており、過去一年の振り返りや反省をしている。	初任者研修時にテキストを用意して倫理マナー研修をしている。また、上長が講師となり年一回は倫理マナー研修に全員参加しており、過去一年の振り返りや反省をしている。	倫理マナー研修会は、1時間ほどであるが終了後に各自がレポートを提出し再確認している。研修内容は「スピーチロック」「利用者はおお客様」「方言を使う場」等である。個人情報とプライバシーについては、入職時に説明し同意を得ている。	

自己評価および外部評価結果

事業所名 やさしい手グループホームこうふ西

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1階)	ユニット名(2階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	できるだけ日常生活の中でご本人の思いや希望が表出できる会話ができるようにスタッフへ指導している。ご利用者の表情や言動などを常に見る、聞く事で支援していくようにしている。	できるだけ日常生活の中でご本人の思いや希望が表出できる会話ができるようにスタッフへ指導している。ご利用者の表情や言動などを常に見る、聞く事で支援していくようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースを職員も把握しているのでその方のリズムを崩さない様に支援している。職員側の心のゆとりがないとペースも崩してしまいがちなので意識して支援するようにしている。	一人一人のペースを職員も把握しているのでその方のリズムを崩さない様に支援している。職員側の心のゆとりがないとペースも崩してしまいがちなので意識して支援するようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の今までの生活習慣を知った上でその人らしい身だしなみをして頂いている。できるだけその方の思いに沿うようにまかせている。また衣類と一緒に買いに行くこともある。	ご本人の今までの生活習慣を知った上でその人らしい身だしなみをして頂いている。できるだけその方の思いに沿うようにまかせている。また衣類と一緒に買いに行くこともある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎週土曜日は手作りランチとしてご利用者に要望を聞きながら一緒にランチを作ってもらう。共同作業で全員がお手伝いできるように工夫している。外食をしたり、行事食も作ってご家族も呼んで食べてもらっている。毎日の食事は管理栄養士がメニューを決めている	毎週土曜日は手作りランチとしてご利用者に要望を聞きながら一緒にランチを作ってもらう。共同作業で全員がお手伝いできるように工夫している。外食をしたり、行事食も作ってご家族も呼んで食べてもらっている。毎日の食事は管理栄養士がメニューを決めている	手作りランチの時は、頂いた野菜等を使いながらカレーやハンバーグ等を作ったり、食堂に貼ってある日本地図を見ながら全国のメインの食べ物を作り楽しんでいる。混雑のない平日に回転ずしやファミリーレストラン等で外食をしている。行事の時は、家族の食事を準備し、利用者と家族の一緒の時間が持てる様な計らいをしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士がメニューや食事のバランスを考えている。水分も好きな物が飲めるように数種類の飲みものを常時用意している。水分量が極端に少ない方には一日の水分量をチェックして飲んで頂けるように勧めている。	管理栄養士がメニューや食事のバランスを考えている。水分も好きな物が飲めるように数種類の飲みものを常時用意している。水分量が極端に少ない方には一日の水分量をチェックして飲んで頂けるように勧めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行なっている。週1回訪問歯科が入り口腔内のケアや必要な方には治療を行なっている。できるだけご利用者本人が口腔ケアを行なうようにしており、磨き残しなどは援助している。	毎食後、口腔ケアを行なっている。週1回訪問歯科が入り口腔内のケアや必要な方には治療を行なっている。できるだけご利用者本人が口腔ケアを行なうようにしており、磨き残しなどは援助している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、排尿、排便の状況が把握できるようにしている。それぞれの能力に応じた排泄支援を行いできる限り、トイレで排泄できるようにしている。立位が困難な方でも職員が二人介助でトイレで排泄できるように介助している。	排泄チェック表を使用し、排尿、排便の状況が把握できるようにしている。それぞれの能力に応じた排泄支援を行いできる限り、トイレで排泄できるようにしている。立位が困難な方でも職員が二人介助でトイレで排泄できるように介助している。	常時オムツ使用で高齢の利用者が1名と自立の利用者1名以外は、時間を見て声掛けトイレ誘導している。リハビリパンツと尿取りパットを使用しているが、尿量によるパットの違い・パットのテープが両面か片面か等何種類ものパットを用意し状態に合わせて使っている	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	活動量を多くする。水分摂取をこまめにしてもらう。排便チェックでの管理。医師や看護師との連携。時には内服での調整も行っている。頑固な便秘の方にはセンナ茶も飲んでもらうこともある。	活動量を多くする。水分摂取をこまめにしてもらう。排便チェックでの管理。医師や看護師との連携。時には内服での調整も行っている。頑固な便秘の方にはセンナ茶も飲んでもらうこともある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週に2回は入浴してもらうように入浴回数表を確認しながら曜日を決めず、本人のタイミングなどで声掛けしている。冬場のヒートショック等も注意して快適に入浴できるように支援している。	週に2回は入浴してもらうように入浴回数表を確認しながら曜日を決めず、本人のタイミングなどで声掛けしている。冬場のヒートショック等も注意して快適に入浴できるように支援している。	1階の浴室にはリフト浴があり、重度な利用者も入浴可能である。曜日や時間に関係なくいつでも入浴出来る体制にある。皮膚の観察・転倒に注意・気持ちよく入浴出来ているか等を意識して支援している。入浴剤は、好みで使用している。	

自己評価および外部評価結果

事業所名 やさしい手グループホームこうふ西

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1階)	ユニット名(2階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	季節により居室の環境に配慮して気持ちよく眠れるように配慮している。入眠前は穏やかに皆で談笑したりできる空間を作り、個々の御利用者の安眠ができるように支援している。	季節により居室の環境に配慮して気持ちよく眠れるように配慮している。入眠前は穏やかに皆で談笑したりできる空間を作り、個々の御利用者の安眠ができるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋のファイルがあり、各職員が服薬の内容を理解できるようにしている。服薬の内容に変更が生じた時は朝礼時や引き継ぎノートで情報共有している。誤薬などが無いように透明な小さい容器に入れ落下しないよう工夫している。薬に勉強会も行う。	処方箋のファイルがあり、各職員が服薬の内容を理解できるようにしている。服薬の内容に変更が生じた時は朝礼時や引き継ぎノートで情報共有している。誤薬などが無いように透明な小さい容器に入れ落下しないよう工夫している。薬に勉強会も行う。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴をそのまま生かすことでできなくなったことに意欲低下をされる方もいるので、個々の今の能力を見だし、負担なく楽しめる役割を見つけて行なってもらっている。	生活歴をそのまま生かすことでできなくなったことに意欲低下をされる方もいるので、個々の今の能力を見だし、負担なく楽しめる役割を見つけて行なってもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候に左右される事もあるが出来る限り散歩したり、外気浴してもらう為、外でお茶を楽しまれたりするようになっている。誕生日などで行きたい所、食べたいものなど聞き出し、家族も交えてお連れする事もある。	気候に左右される事もあるが出来る限り散歩したり、外気浴してもらう為、外でお茶を楽しまれたりするようになっている。誕生日などで行きたい所、食べたいものなど聞き出し、家族も交えてお連れする事もある。	散歩時は、近くの桜並木に行ったり近所の方と挨拶や言葉を交わしたり花を頂く事もある。1・2階にはベランダがあり、プランターに野菜や花を育て天気の良い時は、そこでお茶飲みをする等外気浴をしている。昇仙峡・金川の森・小瀬スポーツ公園や商業施設等のドライブにも出かけている。	
50		○お金の所持や使うことでの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	契約時にお金の心配がある方には所持してもらうこともある。基本は預り金としてGHで管理して必要な時に一緒に買い物したり、自分で支払われるようにしている。	契約時にお金の心配がある方には所持してもらうこともある。基本は預り金としてGHで管理して必要な時に一緒に買い物したり、自分で支払われるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	電話を掛けたい等の希望のある方は適宜、かけてもらっている。本人の希望通りに支援している。	電話を掛けたい等の希望のある方は適宜、かけてもらっている。本人の希望通りに支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は居心地の良い空間となるように環境を整えている。最近はいすいすいテーブルに変更し状況に合わせてレイアウトしやすいようにして、ご利用者が混乱されない程度に家具の位置などを変えて頂いている。	共用空間は居心地の良い空間となるように環境を整えている。最近はいすいすいテーブルに変更し状況に合わせてレイアウトしやすいようにして、ご利用者が混乱されない程度に家具の位置などを変えて頂いている。	明るい居間を囲んでスタッフルーム・キッチンがあり広々として開放感がある。テーブル・椅子・ソファ等は、利用者が移動しやすい様に置いてある。広い窓ガラスからの日差しと床暖房で利用者は、軽装で過ごしている。廊下は広く手すりが付いて利用者が安全に歩行が出来る。3か所のトイレも広く車椅子でも使用出来る。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご新規の方が一人入られるだけで空気が一変するので、どのような居場所が個々の御利用者にとって安心できるのか、常に職員は観察しながら安心できる居場所を考えている。	ご新規の方が一人入られるだけで空気が一変するので、どのような居場所が個々の御利用者にとって安心できるのか、常に職員は観察しながら安心できる居場所を考えている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の環境はご本人やご家族に任せ、居心地の良い空間となるようにお願いしている。ご本人の状態に合わせて、居室のレイアウトを変更する時もある。	居室の環境はご本人やご家族に任せ、居心地の良い空間となるようにお願いしている。ご本人の状態に合わせて、居室のレイアウトを変更する時もある。	ベッド・エアコン・大きなクローゼット・整理ダンスの他に加湿器の提供がある。利用者は、机や椅子・仏壇等それぞれ思い出の家具を持ち込んで安心出来る居室としている。家族や大事な人の写真や習字や墨絵等の自分の作品を飾っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共有スペースを広く取っており、それぞれの居場所を自分で選択して頂いている。バリアフリーとなっているので転倒などのリスクを最小限にして自立した生活が送れるように支援している。	共有スペースを広く取っており、それぞれの居場所を自分で選択して頂いている。バリアフリーとなっているので転倒などのリスクを最小限にして自立した生活が送れるように支援している。		